

～9号—2013年10月1日発行～

*10代、20代、30代以上の不登校・ひきこもりの方の社会参加を考える支援団体です。

ポラリス通信

～不登校・ひきこもりの対応ニュース～

トカネット・代表藤原宏美

考えてみましょう—社会参加ってなんだろう？

学校に行かない、働かないというのは、家族にとっても、本人にとっても切実な問題ですが、どうして行けないのでしょうか。

いったい学校や職場とはどういう場所でしょうか？

それはたんに建物ではありません。そこにはいろいろな人がいます。自分と波長が合う人も合わない人もいます。自分と違った考えが生じます。それにより想定外のことが常におきます。

それらすべてに瞬時に折り合いをつけて、対応していかななくてはいけない場所です。

そのうえ朝早くから夕方まで毎日毎日、何年もいかななくてはいけない場所です。そういった意味では社会参加の形の中でもかなり高度な場所だといえます。

その前に近所のおばさんにあいさつができるでしょうか。コンビニの店員さんと話せるでしょうか。家に来た宅急便の人に対応できるでしょうか。友達にちゃんと自分の気持ちや考えていることを伝えられるでしょうか。

これらもすべて社会参加です。

こういった身近な人たちとのかかわりが自然にできてこそ、もっと複雑な学校や職場でもいられるようになります。

社会参加の基本は、家族以外のひとりの他人とかかわることから始まります。

二人という最小限の社会単位の中で、そこで生じた考え方の違いに折り合いをつけることができ、また想定外のできごとに対応ができるようになっていけば、その成功体験が少しずつ複数の人間関係の中でも実現されていきます。

ただ、不登校やひきこもりの人はすでに学校や職場で疲れ果て傷ついて、人に対する安心感が持てなくなってしまう子どもがほとんどです。

そのため、いまから始める社会参加の最初のひとは、自分の状態をわかってくれていて、受け入れてくれる安心できる人でなければいけません。

たとえばメンタルフレンドもその役割です。

自分を受け入れてくれる人とかかわっていると、そのうち自己肯定感が上がってきます。

それにより気力や意欲が上がって社会参加の次のステップへとつながっていきます。

－自分の作品を冊子にする製本教室を開きます－

小説・絵本・詩集・エッセイ集・論文などを冊子・本にする製本教室を開きます。自分の作品はなくてもこの作業をしてみたい方は参加してください。

(1) 自作の手作り本は合計すると13点あります。『ひきこもり国語辞典』は残り3冊ですので、この機会に増刷・製本します。『少女まんがに描かれた母親像』は1冊もありません。他に製本する作品があるので印刷・製本をします。

(2) 絵本を描いている人が来られまして、それを製本したいと希望されています。カラー印刷の仕方から考えなくてはならないかもしれません。そして製本します。

(3) 作品を作っている人は、下書き段階、編集段階、印刷段階などいろいろな状態があると思います。その段階に応じてどうすれば作品づくりが出来るのかを考える場にします。すでに出来ているものを可能な範囲で持ってきてください。自作品の制作に関する材料費などを負担していただく場合があります。

(4) 来年2月2日にコミティア（コミケの作品展タイプ）にブースを設けて出店するつもりなので、その準備始めです。コミティアに作品を実際に出展するかどうかは作者の意思によります。ブース出展料5800円（イス料金を含む）は不登校情報センターとして負担します。

(5) 製本教室の日時・場所は10月20日（日）午後1時から3時半。不登校情報センターの事務所とします。これは毎月1回開く居場所企画の一つです。うまくいけばときどきこの月例の居場所企画に製本教室または創作関係的なものを取り入れたいと思います。

不登校情報センターの10月の予定

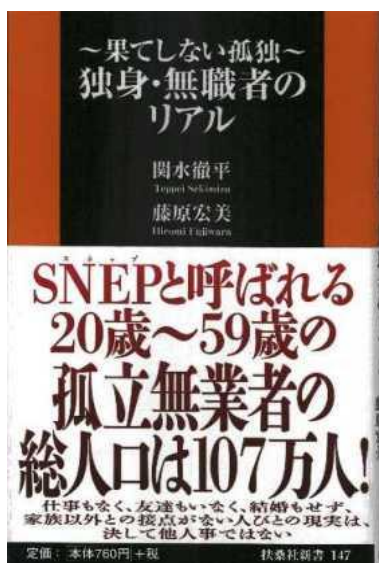
わかっている範囲で不登校情報センターの10月の予定をまとめました。個人面談とサイト制作・事務作業グループを除きます。

- 12日（土）13：00－15：30 不登校セミナー
- 13日（日）13：00－15：00 大人の引きこもりを考える会
- 19日（土）13：30－15：30 手紙活動参加者の説明会
- 20日（日）13：00－15：00 製本教室
- 20日（日）13：00－13：30 訪問サポートを考える会

*このほかに水族館に行く企画もあります。

*カウンセラー面談は、20日に柳井さん、24日に金子さんが予定しています。希望者は連絡をください。

★本を出しました。ートカネット代表・藤原宏美



『独身・無職者のリアル』

〜果てしない孤独〜（扶桑社新書）』

- ・ 798 円（税込）
- ・ 発売日：2013 年 09 月 26 日
- ・ 著者／編集：藤原宏美・関水徹平
- ・ 出版社：扶桑社
- ・ サイズ：新書
- ・ ページ数：179p
- ・ ISBN コード：9784594069308

＊商品の詳細説明＊

【内容情報】

SNEPと呼ばれる20歳～59歳の孤立無業者の総人口は107万人！仕事もなく、友達もいなく、結婚もせず、家族以外との接点がない人びとの現実、決して他人事ではない。

【目次】

第1章 スネップの登場とその社会的背景（スネップ（SNEP）＝孤立無業者とは／有縁社会から無縁社会へ）／第2章 スネップ・潜在的スネップの現実（スネップ・潜在的スネップ、4つの事例／ひきこもり支援の立場から見たスネップ・潜在的スネップの実情／スネップ状態の裏にある人生の“重さ”）／第3章 コミュニケーションと孤立（孤立とコミュニケーションの変化／コミュニケーション能力とは／根強い「自己責任」論と社会構造の変化）／第4章 15年のひきこもり支援から見たスネップ問題（社会復帰の実例から見いだせること／多種多様な社会復帰の形とは／不登校、ひきこもり、ニートへの国の支援姿勢の推移）

【著者情報】

◆関水徹平（セキミズテツペイ）

早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。早稲田大学文学学術院助手、同非常勤講師を経て、立正大学社会福祉学部専任講師。専門は社会学。

◆藤原宏美（フジワラヒロミ）

関西大学経済学部卒業後、民間企業・法律事務所の相談員を経て、不登校ひきこもりの子供を対象に1998年、メンタルフレンドによる訪問サポート活動をする団体「トカネット」を立ち上げる。翌年（現）NPO法人不登校情報センターと活動に共にして、同センター訪問支援部門「トカネット」として活動を広げる。トカネット代表・NPO法人不登校情報センター理事。

◆今後のお知らせ

(1) 「訪問サポートを考える親会」

●うちの子は誰にも会わないと、あきらめないで下さい。
メンタルフレンドとかかわって、不登校やひきこもりの子供たちが、学校やバイトなどを含めた多様な形で社会と繋がっていきます。
まずは、一緒に考えましょう！！

*日時： 10月20日(日) 13時～15時30分。

*参加費：500円。 *対象：不登校・未就労の子供の親

(2) 第13回不登校・未就労の対応「ミニセミナー&質疑応答の会」

●何が子供におきているのか。●親が出来る事。●安心出来る人間関係を作っていくこと。●モチベーション・自己肯定感を上げていくこと。●学校復帰・バイト・友達づくりなどの社会参加につなげていくこと・・・など専門家と一緒に考えていきます。

*日時：10月12日(土)、13時～16時。 *参加費：500円

*対象：10代および20代前半の子供の親・体験者・学びたい人

(3) 「大人のひきこもりを考える教室」

*日時：10月13日(日)、13時～15時。

*参加費：500円

*対象：親・体験者・学びたい人

◎上記は、全て予約制です(連絡先は下記まで)。

◎場所：NPO 法人不登校情報センター(総武線「平井」南口・徒歩5分)

◎地図はHP参照。



●NPO 法人不登校情報センター

●訪問サポートトカネット

【発行元】 ポラリス通信編集部

〒132-0035 東京都江戸川区平井 3-23-5-101

連絡先

TEL/03-5875-3730/090-4953-6033(藤原)

E-mail/tokanet1998-lucky-chance@docomo.ne.jp

URL/http://www.futoko.info/tokanet/index.htm